

農 林 水 産 統 計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

農 林 水 産 省

九州農政局
大分農政事務所

平成20年4月30日公表

平成19年 海面漁業・養殖業生産量の概数（大分県）

- いわし類、たちうおは豊漁、さば類、まぐろ類は不漁 -

【調査結果の概要】

- 平成19年（1～12月）の海面漁業・養殖業の生産量は6万5,917tで、前年に比べ2,820t（4%：対前年比、以下同じ）減少しました。
- 海面漁業の漁獲量は4万5,168tで、前年に比べ3,349t（7%）減少しました。
これを漁業種類別にみると、まき網、はえ縄、小型底びき網等で減少しました。
魚種別では、いわし類、たちうお、貝類（主にあさり類、さざえ）で増加しましたが、さば類が大幅に減少したのをはじめ、まぐろ類、あじ類、かつお類等が減少しました。
- 海面養殖業の収穫量は2万749tで、前年に比べ529t（3%）増加しました。
これは、のり類、まだい、くるまえび等が減少しましたが、ぶり類をはじめ、かき類、ひらめで増加したためです。

区 分	部 門 別 生 産 量				単 位 {	
	平 . 19	18	対前年差	対前年比	生産量 : t	比率 : %
総 生 産 量	65 917	68 737	2 820	96	100	
海 面 漁 業	45 168	48 517	3 349	93	69	
海 面 養 殖 業	20 749	20 220	529	103	31	

注：ラウンドのため、総生産量と内訳は一致しない場合があります。

【解 説】

海面漁業・養殖業生産量の推移

1 海面漁業

海面漁業の漁獲量は4万5,168tで、前年に比べ3,349t（7%）減少しました。

主な漁業種類別・魚種別は、次のとおりです。

(1) 主な漁業種類別漁獲量

ア 小型底びき網

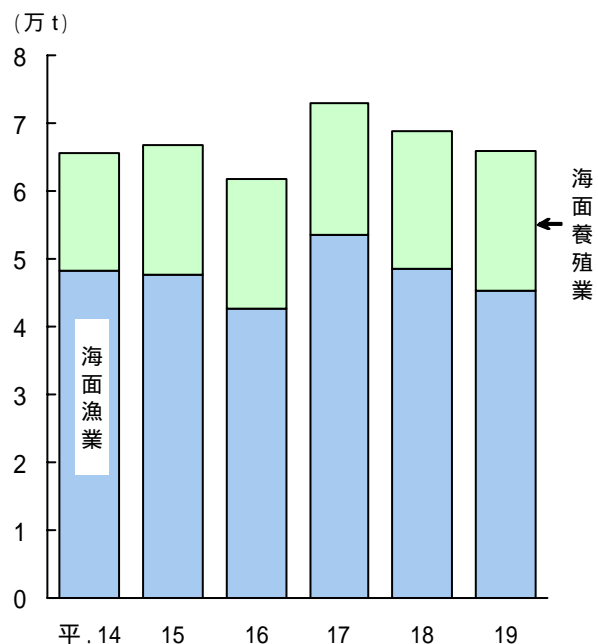
漁獲量は3,920tで、前年に比べ904t（19%）減少しました。

これは、たちうお、たい類（主にくろだい・へだい）、かに類等で増加したものの、いか類、えび類、ひらめ・かれい類等で減少したためです。

イ 船びき網

漁獲量は5,867tとなりました。

これは、たちうお、たい類（主にまだい）、いか類等で増加したものの、いわし類、あじ類等で減少したためです。

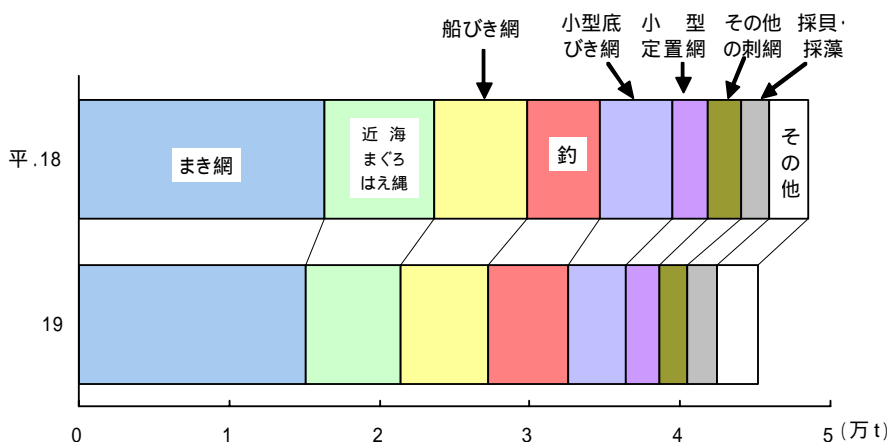


ウ まき網

漁獲量は1万5,111 tで、前年に比べ1,217 t (7%) 減少しました。

これは、いわし類が大幅に増加し、ぶり類、たちうお等も増加したものの、さば類、あじ類、かつお類で減少したためです。

漁業種類別漁獲量



エ その他の刺網

漁獲量は1,936 tで、前年に比べ372 t (16%) 減少しました。

これは、かに類、いか類、ひらめ・かれい類等で増加したものの、あじ類、たい類、えび類等で減少したためです。

オ 小型定置網

漁獲量は2,136 tで、前年に比べ110 t (5%) 減少しました。

これは、あじ類(主にまあじ)、いわし類(主にうるめいわし)、たちうお等で増加したものの、ぶり類、いか類、たい類等で減少したためです。

カ 近海まぐろはえ縄

漁獲量は6,287 tで、前年に比べ989 t (14%) 減少しました。

これは、びんなが、かじき類は増加したものの、きはだ、めばち等で減少したためです。

キ 釣

漁獲量は5,255 tで、前年に比べ358 t (7%) 増加しました。

これは、ぶり類、いさき、たい類(主にまだい)等で減少したものの、たちうお、あじ類(主にまあじ)などが増加したためです。

(2) 主な魚種別漁獲量

主要魚種別漁獲量の構成比

ア いわし類

漁獲量は1万4,140 tで、前年に比べ3,722 t (36%) 増加しました。

これは、まき網、定置網で増加したためです。

イ まぐろ類

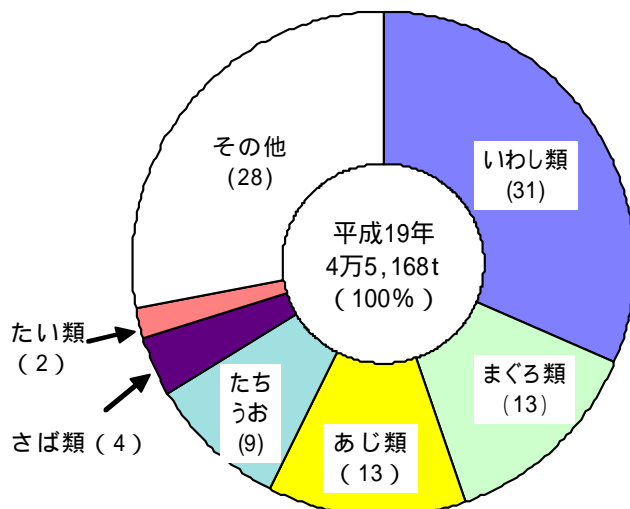
漁獲量は6,031 tで、前年に比べ1,056 t (15%) 減少しました。

これは、はえ縄漁業で、びんながは増加したものの、きはだ、めばちで減少したためです。

ウ あじ類

漁獲量は5,777 tで、前年に比べ624 t (10%) 減少しました。

これは、定置網、釣で増加したものの、まき網で減少したためです。



エ たちうお

漁獲量は4,043 tで、前年に比べ910 t (29%) 増加しました。

これは、釣、小型底びき網をはじめほとんどの漁業で増加したためです。

オ さば類

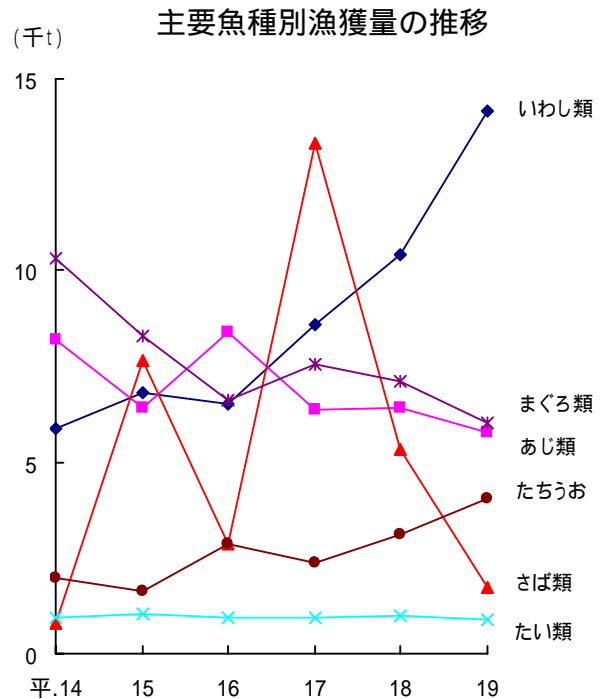
漁獲量は1,750 tで、前年に比べ3,581 t (67%) 減少しました。

これは、主にまき網、小型定置網漁業で減少したためです。

カ たい類

漁獲量は904 tで、前年に比べ106 t (10%) 減少しました。

これは、主にまき網、小型底びき網漁業で増加したものの、その他の刺網、小型定置網で減少したためです。



2 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は2万749 tで、前年に比べ529 t (3%) 増加しました。

主な養殖種類別は次のとおりです。

(1) ぶり類

収穫量は1万6,584 tで、前年に比べ867 t (6%) 増加しました。

(2) ひらめ

収穫量は1,488 tで、前年に比べ46 t (3%) 増加しました。

(3) まだい

収穫量は1,037 tで、前年に比べ127 t (11%) 減少しました。

(4) かき類 (殻付き)

収穫量は124 tで、前年に比べ58 t (88%) 増加しました。

(5) くるまえば

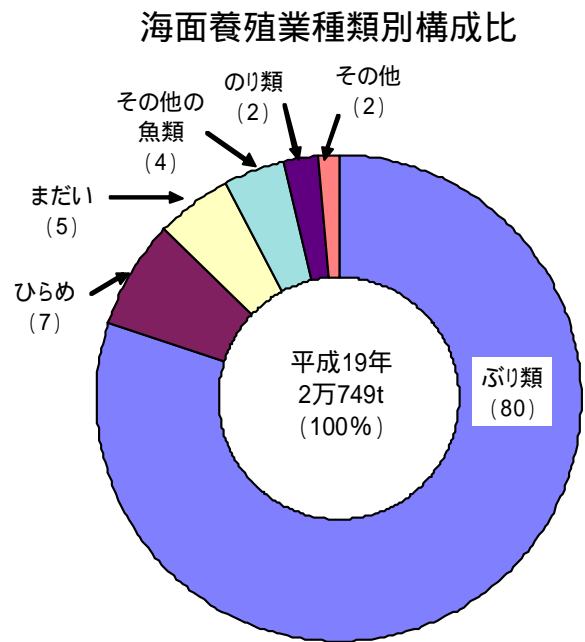
収穫量は78 tで、前年に比べ85 t (52%) 減少しました。

(6) のり類

収穫量は455 tで、前年に比べ132 t (22%) 減少しました。

(7) 真珠類

収穫量は343 kgで、前年に比べ114 kg (25%) 減少しました。



【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は海面漁業、海面養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

本調査は、原則、水揚機関を対象とし、水揚機関で把握できない場合に限り、海面漁業経営体を対象としました。

3 調査期間

平成19年1月1日から12月31日までの1年間です。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚げのために港に入港した日の属する年に含めて調査を行いました。

4 調査方法

平成19年調査から、原則、職員調査を廃止し、調査員調査で実施しました。

なお、往復郵送調査については、職員が実施しました。

5 その他

この資料は概数値であり、確定値については、追って刊行する「第55次大分農林水産統計年報」に掲載します。

生産量は、「t」単位とし（真珠養殖を除く）単位未満を四捨五入したため計と内訳が一致しない場合があります。

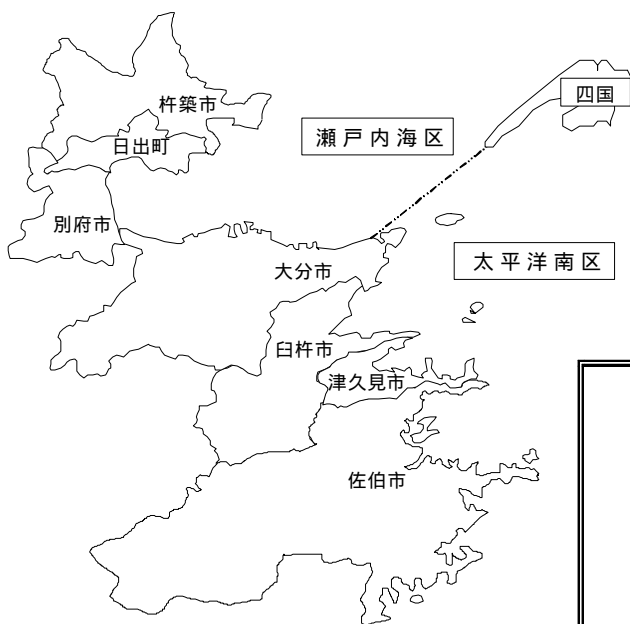
生産量のうに類、貝類は、殻付き重量、海藻類は生換算重量です。

この調査結果は、生産物を採捕した漁業経営体が所属する地域別に計上したもので、いわゆる属人統計です。

この資料は九州農政局ホームページでご覧になれます。

[【http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/】](http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/)

漁域図



問い合わせ先

本調査結果について

連絡先:九州農政局 大分農政事務所 統計部

生産流通消費統計課

TEL 097-532-6178 FAX 097-538-1820

農林水産統計全般について

連絡先:九州農政局 大分農政事務所 統計部

統計企画課

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820